


業種	小売業
活用分野	配送・検針・保守業務
テクノロジー	クラウドシステム
端末	スマートフォン 

現場用端末をケータイからスマホへ 自社の成果を糧に外販にも着手

関東圏でLPガスの販売事業を展開する日本瓦斯は、携帯電話を現場端末にしたシステムでガスボンベの配送・交換や検針、保安点検業務の効率化を実現し、2009年にMCPC awardの特別賞を受賞した。

このシステムを、クラウドとスマートフォンの組み合わせによって進化させ、2012年7月から運用を開始。さらに、新システムに「雲の宇宙船」という名称を付し、業界へのサービス提供にも乗り出した。

同社では、並行して物理的な物流改革——運営管理負荷の大きい充填所施設を見直し、ガスボンベを輸送するトレーラーの荷台をそのままプラットフォーム代わりに用いる「デポ基地」の構築——を果たしている。グループ会社でシステム管理・運営を手がける株式会社雲の宇宙船 常務取締役役の出構眞吾氏は、「現場の実務とシステム活用の両面から効率化を

追求したことにより、大幅なコスト削減を実現できました」と語る。

操作性向上でさらなる効率化 現場での印刷環境も整備

端末は、従来の携帯電話に引き続きKDDIのラインナップから堅牢性の高さで定評のある「IS11CA」(NECカシオモバイルコミュニケーションズ製)を選定し、現場スタッフ全員に計2200台を付与。アンドロイド版のアプリケーションは業務別に①検針、②配送、③保安の3種類を用意した。

現場では訪問先や配送ルートを端末画面であらかじめ確認し、さらに客先の検針メーターに貼付したQRコードを読み込むことで詳細な顧客情報を参照。作業完了後もセンター側にその場で情報をアップできる。

作業報告の画面はチェックマークで簡単に入力できるだけでなく、補足的な情報についてテキストおよび音



株式会社 雲の宇宙船
常務取締役
出構(でかも)眞吾氏

声での入力も可能にした。

また、スマートフォンとともにモバイルプリンターも導入し、検針業務において払込取扱票を現場で出力できるようにした。これにより、従来は社内で印刷し郵送していた手間が一気に解消され、年間で6000万円以上のコスト削減にもつながったという。

アプリのWeb化に合わせ クラウドサービス事業も始動

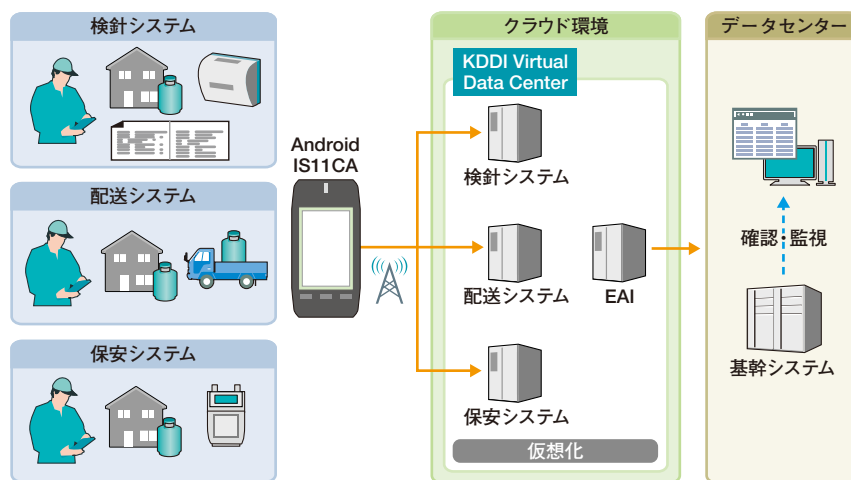
新システムは、本番運用の中でもスタッフからの意見や要望を汲み上げ、機能の改善・向上が図られた。

そして2013年6月には、OSや端末に依存せずに利用できるWeb対応アプリケーションの開発を終え、アンドロイド版からの切り替えに着手した。

同時に、このWeb版アプリでグループ会社はもとより同業他社に対しても、現場業務をトータルでカバーするクラウドサービスとして提供していくこととした。

出構氏は、「私どもでは、サービスだけでなく導入企業へのコンサルティングやSIも提供していきます」と話す。自社の業務改革に大きな成果をもたらしたシステムで、新規ビジネスも大きく成長させていく構えだ。

図 日本瓦斯が構築したシステム「雲の宇宙船」の概要



Profile

日本瓦斯株式会社
<http://www.nichigas.co.jp/>

本社所在地 東京都中央区八丁堀2-10-7

設立 1955年7月29日

資本金 70億7000万円

事業内容

関東圏で家庭用を中心としたLPガス(プロパンガス)および都市ガスを販売